

十勝川切りかえの対立

国際理解
地域産業

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語
さくいん



大正6年(1917)、西士狩(芽室町)住民によって、十勝川の流はライベツ川に切りかえられ、のちに、もとの十勝川はほとんどすがたを消した。
(国土地理院所蔵の1/5万地形図(帯広)を使用、着色)

雨の中の実力行使

大正6年(1917)の7月、雨の中、西士狩の住民は美生川合流点に向かいました。美生中島住民の反対をおし切り、十勝川の流れをライベツ川に切りかえようというのです。

これを知った美生中島の住民は、実力でやめさせようとします。また、芽室村の村長も、何とかおさめようとします。

しかし、西士狩住民は切りかえ作業を続け、十勝川はその流れを真東のライベツ川へと変えることになりました。今の流れとほとんど同じになったのです。

その後、美生中島の暮らしには問題が多くなり、住民は新たに暮らす場所を探し、移り住んでいきます。

芽室町の下美生、大成、北伏古、新生などに移る人もいれば、中には遠く南アメリカに移住した人もいました。

少しずつ川の整備は進みましたが、大正時代になって、十勝川は大きく曲がり、枝分かれをしていました。芽室町美蔓から西士狩にかけての十勝川本流は、美生川の合流点から北に大きくカーブしたあと、今の美蔓川にそって南に下っていました。今十勝川が流れているところは細い枝川で、ライベツ(アイヌ語で古い川の意味)川と呼ばれていました。

この十勝川とライベツ川にはさまれたところは美生中島と呼ばれ、明治29年(1896)から岐阜や富山の開拓団体が入植していました。(開拓団体 p166)

一方、十勝川をはさんだ東側の西士狩でも、早くから鈴木銃太郎(晩成社: p158・p143)らに始まる開拓が進み、明治30年(1897)の加賀団体(石川県)などが移住していました。

十勝川をはさんだ対立

明治31年(1898)の大洪水など、十勝川ぞいの開拓地はたびたび洪水によって被害を受けました。

西士狩地区では、上流で大きく曲がった十勝川から水があふれることによる被害が大きく、住民は上流の直線化を望んでいました。

しかし、美生中島地区にとっては、十勝川が北に流れることで、洪水の被害が小さくてすんでいたのです。

十勝川をはさんだ2つの地区の間には、対立が生まれました。



美蔓川が十勝川に合流しているところ(芽室町)。明治時代終わりころの十勝川は、赤い点線あたりを通過して、今の美蔓川下流のところを流れていた。

古い地形図を見る ... 明治29年ころからの移り変わり

地形図は、地形や川、土地利用、集落、道路、鉄道などを正確に表示した地図です。5万分の1のものと、もっとくわしい2万5千分の1のものなどがあります。

土地のようすは、だんだんと変わっていくので、間を置いて調べ直し、そのたびに新しい地形図に直していきます。ですから、古い地形図と最近のものとをくらべると、川の流れや道などの変化がわかるのです。

十勝についての最も古い地形図は、明治29年（1896）につくられたものです（5万分の1だけ。十勝の2万5千分の1地形図は戦後から）。

帯広市街地周辺の地形図を、いくつかならべてみました。変化を見てみましょう。

古い地形図の入手方法は、国土地理院のホームページ（<http://www.gsi.go.jp/>）から「地形図図歴」のページを探すとわかります。



注：たて横に入っている直線は、植民地の区画線で多くが道ではない(道であるところも)



明治29年（1896）製版

この場所で最も古い地形図。

昔は横書きの文字は、右から左へ読んでいました。ただし、カナの小さな文字（ッ、ヨ、エやアイヌ語名のノなど）は、前の文字の右下に書いてあります。

左地図の「ケレペレペオ」は「オペレペレケ」ではなく、「オペレペレケ（今の帯広川）」と読みます。また、「トラバ」は、「パラトー」と読みます。

大正11年（1922）発行

川の流れがかなり変わっています。札内川（とそのまわり）の流れがまとまり、また、札内川と十勝川が、この地図の中で合流しないまま東（右）に向かっていきます。札内川は、この先、おもに今のメン川（幕別町）を流れています（p171）。

白黒の地図は読みにくいので、188ページのように、目的に合わせて色をぬった方がいいかも知れません。

昭和21年（1946）発行

この20年くらいの間に、大きく変わったことは、帯広川（地図には『川廣帯』とある）が、まっすぐな流れにほられていることです。また、よく見ると、札内川や十勝川に堤防がつくられています。

地形図は実際のようすを調べて、直すのに時間がかかります。この地形図の場合は、昭和19年（1944）に調べられています。

平成9年（1997）発行

最近の地形図です。帯広川が札内川に合流しています。

この図は平成8年（1996）に一部修正されたのですが、調査は前の年です。その後の変化は入っていません。

この図の十勝大橋は、ひとつ上の地図と同じ場所にあつて、平成7年（1995）につくられた今の十勝大橋ではありません。新しい地図でも、情報が今のものとは限らないのです。

（このページの地図は、国土地理院刊行・所蔵の1/5万地形図「帯広」を使用。色文字は、もとはどの地図にも入っていません）

1 ホームページ：ホームページ（ウェブサイト）は閉鎖されたり、URL（アドレス）が変更されて、ご覧になれない場合があります。